

【5AM-77】音声分析におけるサンプリング周波数について正しいのはどれか。

1. 分析可能な最高周波数に一致する。
2. 2倍以下の周波数範囲が分析対象となる。
3. 1/2以下の周波数範囲が分析対象となる。
4. 1/5以下の周波数範囲が分析対象となる。
5. 分析可能な周波数範囲に関係がない。

【7AM-80】音響分析でAD変換のビット数を少なくすると増大するのはどれか。

1. 折り返し歪み
2. 量子化雑音
3. SN比
4. 周波数分解能
5. 時間分解能

【11AM-41】デジタル音響分析で正しいのはどれか。

- a. 標本化周期を短くするほどデータ量は増える。
 - b. 量子化ビット数を大きくするほどデータ量は増える。
 - c. 標本化周波数を高くするほど周波数分解能は良くなる。
 - d. 量子化ビット数を大きくするほど量子化雑音は増える。
 - e. 1,000Hzの純音は1,000Hzの標本化周波数で標本化してもよい。
1. a、b 2. a、e 3. b、c 4. c、d 5. d、e

【15AM-42】音声信号のデジタル音響分析で標本化周波数を選ぶとき考慮すべきものはどれか。

1. 信号振幅の最大値
2. 信号の基本周波数
3. 信号のホルマント周波数
4. 信号成分の最高周波数
5. 信号成分の最低周波数

【21PM-140】音声のデジタル録音について誤っているのはどれか。

1. アナログ・デジタル変換が必要である。
2. 標本化周波数までの周波数成分を録音できる。
3. 量子化ビット数が大きいほど量子化雑音は小さくなる。
4. 録音レベルの調節が悪くて過大入力になると、音が歪む。
5. データを圧縮する方式としない方式とがある。